



肝機能が気になったら（肝臓病）

* 肝機能で注目する検査項目 *

一般に肝機能検査はAST(GOT), ALT(GPT), γ -GTPの三つの指標で評価されます。

AST・ALT

この二つは、肝機能の状態を表す代表的な検査項目です。ASTは、筋肉中に最も多く存在し、その次に肝臓に多く存在する酵素です。従って、激しい運動や心筋梗塞の後でも上昇します。ALTは、肝臓に最も多く、この値が上昇しているときは肝機能の障害が強く疑われます。

γ -GTP

肝臓と胆道系(胆汁の通り道)に多く存在します。アルコールの過剰摂取で高頻度上昇することが有名ですが、ほかの原因で上昇することもあります。

- 肝炎ウイルス
- アルコール過剰摂取
- 肥満
- 薬物の副作用
- 胆石などの胆道系疾患
- 肝がん



生活習慣病としての肝機能障害

近年、肥満との関連が大きく注目されています。若い頃と比べ体重が何キロも増えている人で、AST、ALTが高い人は脂肪肝になっている可能性があります。これに γ -GTPも高い人は、アルコールと高カロリー食の二重の影響を受けて、肝障害を起こしているかもしれません。脂肪肝の一部は、肝硬変へと移行することが分かっていますから、脂肪肝をあまり軽く見ては行けないことが指摘されています。

経過観察の重要性

肝機能値が高めの方は定期的に肝機能検査を行い、数値が上昇し続けているか注意してください。どれくらいの間隔で調べればよいかは数値に応じて個人ごとに異なるため、医師にご相談ください。



精密検査の必要性

肝機能異常をもたらす原因は、極めて多様です。しかも、原因ごとに対処の仕方が全く異なります。何が原因かをまず調べてもらい、対処の仕方を検討しましょう。健診で発見される肝疾患は、自覚症状のない人がほとんどです。肝機能異常が見つかった場合、特に自覚症状がなくても医師に相談して今後の方針を決めるようにして下さい。